



大町病院管理者 赤羽氏が就任へ

甲府市立病院前院長

大町市は十九日、市立大町総合病院の事業管理者に甲府市立甲府病院の前院長赤羽賢浩氏(63)の写真を四月一日就任すると発表した。

赤羽氏は松本市在住。内科医で専門は肝臓病学。一九六九年信大医学部を卒業。同医学部や山梨医科大学などを経て、二〇〇三年十一月から昨年未まで市立甲府病院長を

務めた。大町総合病院で診察にも当たる意向だ。

記者会見した赤羽氏は「急激な高齢化社会の到来の中で大町地域の地域医療をどう構築していくか。その中で市立病院がどういう役割を担っていくべきかが課題」と述べ、市民や患者、地域の医療機関、福祉施設と十分な連携を取りたいとした。当面、昨年末までに二人が辞めた内科医など常勤医確保に力を入れるとした。

同市は経営安定化などを目的に昨年四月、同病院について地方公営企業法の一部適用から全部適用に移行。同時に事業管理者も置く予定だったが、人選が遅れていた。

赤羽君からのコメント

大学紛争の最中に信州大学を卒業し、信州大学・山梨医科大学(後に山梨大学)で合計34年間大学生活を送りました。その後、2003年11月から山梨県甲府市の市立病院の院長を勤めましたが、病院経営と医療紛争に悩まされ続け、2007年12月辞任させて頂きました。やっと松本に帰してもらいましたが、2008年4月より、市立大町総合病院の病院事業管理者に就任の予定です。また難問山積ですが、よろしくお願い致します。